

市民スキー場の整備について

1. 「市民スキー場検討会議」の設置について

本市では、市民スキー場を冬季スポーツ普及・振興の拠点施設として位置づけ市民の生涯スポーツや競技者の育成・強化及び学校教育を推進してきたところです。

一方、昭和48年に設置したリフト設備の老朽化に伴い安全な輸送に著しく影響が生じていることから、恵庭市スポーツ振興まちづくり審議会の意見を参酌するとともに、スキー連盟を始めとする各団体、小中学校の代表など関係者にお集まりいただき「市民スキー場検討会議」を設置し、今後の整備を含む運営について協議・検討いただいたところであります。

【市民スキー場検討会議の構成】

スキー場活動拠点団体	恵庭スキー連盟、恵庭スキー学校、 恵庭市スキーパトロール赤十字奉仕団
学校関係	小中学校代表
施設管理者	恵庭市体育協会、島松ハイヤー(株)

【検討会議の状況】

第1回 (6/15)	現況と課題の報告、運営休止に関する意見集約
第2回 (6/29)	団体内での議論結果報告
第3回 (7/6)	今後のスキー場の在り方（現地調査）
第4回 (7/13)	今後のスキー場の在り方
第5回 (8/8)	今後のスキー場の在り方

2. 「市民スキー場検討会議」の検討内容について

市民スキー場を活動拠点とする団体、学校、施設管理事業者に市民スキー場の安全な運営の確保及び利用促進に向け、現状と課題を踏まえ今後の在り方について、次のとおり検討いただいたところです。

【現状】

市民スキー場のリフト設備は、設置より40年以上経過し老朽化が顕著であり、索道メーカーより、各種部品関係の整備や交換等を計画的に行うことや、安全運行に必要な減速装置、安全バーの設置を含め機器整備の必要性があると報告を受けていることから、スキー場の安全確保及び更なる利用者の拡大を目指し、リフトの新設整備に向けた早急な対策を講じる必要がある。

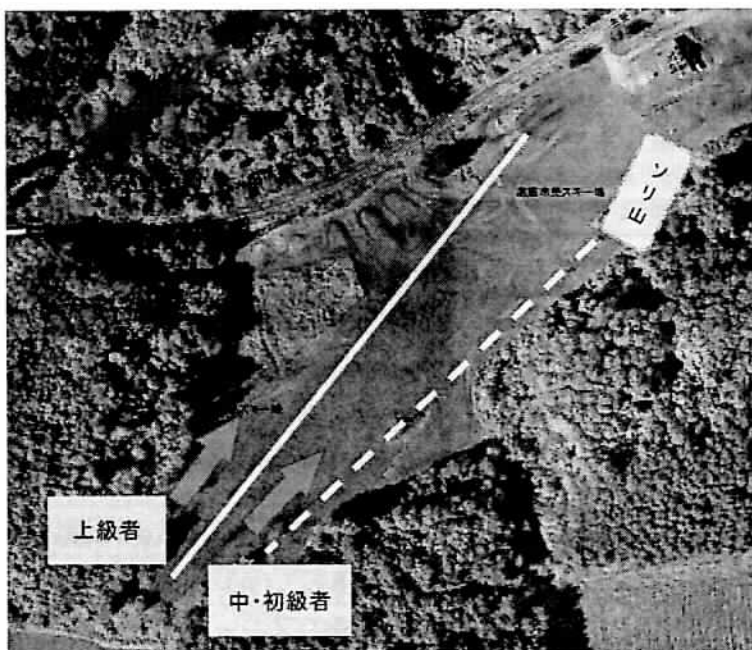
【課題】

スキー場新設にあたっては、設計・運輸局への申請・工事などを含め概ね1年間の工期を要することから、1シーズンの休業が必要となり、近年利用者の拡大を図ってきたスキー連盟を始めとする各団体の活動拠点、また小中学校の学校授業、市民への冬期スポーツの振興の場の確保が急務である。

さらには、今後も多くの集客を得ることができるよう、利便性が高く魅力のあるスキー場を目指すための検討が必要である。

【検討結果】

- ① リフトの老朽化に伴う安全性確保の観点から平成29年度のスキー場の運営は休止とし、早期リフトの新設整備に向け取り組む。
- ② スキー連盟を始めとする各団体の活動拠点、また小中学校の学校授業の場として、近隣の受入可能な施設管理者と協議を行い活動拠点の確保に努めるとともに、広報・HPなどをおして広く市民に周知する。
- ③ 現地調査の結果を踏まえ、初級・中級・上級コースを設け、より活用しやすいスキー場の設定を行い、利用者の拡大を目指す。



※1 実線は新設のリフト設置予定箇所

※2 点線は既設のリフト設置箇所

3. 今後の整備について

冬季スポーツ普及・振興の拠点施設である市民スキー場について、「市民スキー場検討会議」の検討内容に基づき実施設計を行い、多くの集客を得ることができるよう施設の早期リニューアルを目指します。